



令和2年度前期教養教育を振り返って

高等教育院長 高石 鉄雄

～全ての名市大教育関係者の皆様、ありがとうございました～

本学では予定より約10日遅れて4月22日に遠隔授業又は課題研究による授業（以下、「オンライン授業」という。）により前期の授業を開始し、6月3日からは原則として対面型授業を実施することといたしました。この間、皆様方には多大なご負担をおかけしましたが、引き続き行われた定期試験期間を含め、いわゆる“コロナウイルス感染クラスター”を発生させることなく前期全日程を終えることができました。この間、様々な工夫や努力をもって前期授業に取り組んでいただいた教員の皆様、および教育環境の保全（種々の授業サポートや消毒作業）に取り組んで下さった職員の皆様に、この場を借りて深く感謝いたします。

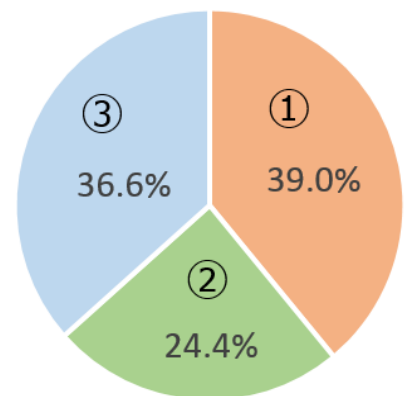
以下、私が担当する全学部1年生の必修科目「健康・スポーツ科学」の中で、オンライン授業期間（5月中旬）および対面授業最終日に行ったアンケートを集計しました。ここではその主要部分をご覧いただくことで、学生がどのようなことを思っていたかを教職員の皆様方と共有させていただきたいと思います。

設問 A、B では、対面授業や学校活動を望む声がどれだけあるかを問いました、結果はご覧の通りで、通学に対してポジティブでない回答(②+③)は、設問 A では61%、設問 B では54%を占めました。

調査期間：5月12日(水)～5月19日(火)

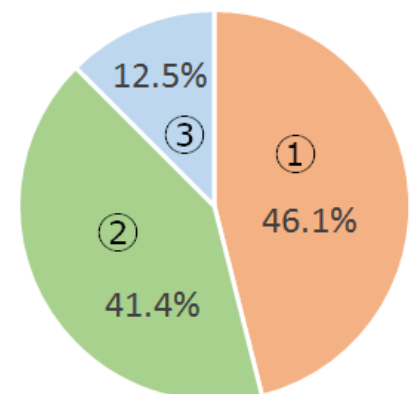
設問 A：大学の教室での対面授業について(ここでは通学途中のリスクを考えず、授業だけを考えて)最も近いものを1つ選んでください

- ①：教室で座る間隔を広めにとって換気をして感染の可能性はゼロではないが、とにかく、1日も早く通常授業を始めてほしい
- ②：座る間隔を広めにとっても感染が心配なので、前期はこのままオンライン授業で終わってほしい
- ③：大学での感染は心配していないが、オンライン授業に慣れたので、前期はこのままオンライン授業で終わっても構わない



設問 B：学校活動の再開について(対面授業開始だけでなく、部活動やサークル活動の自粛解除を含む)

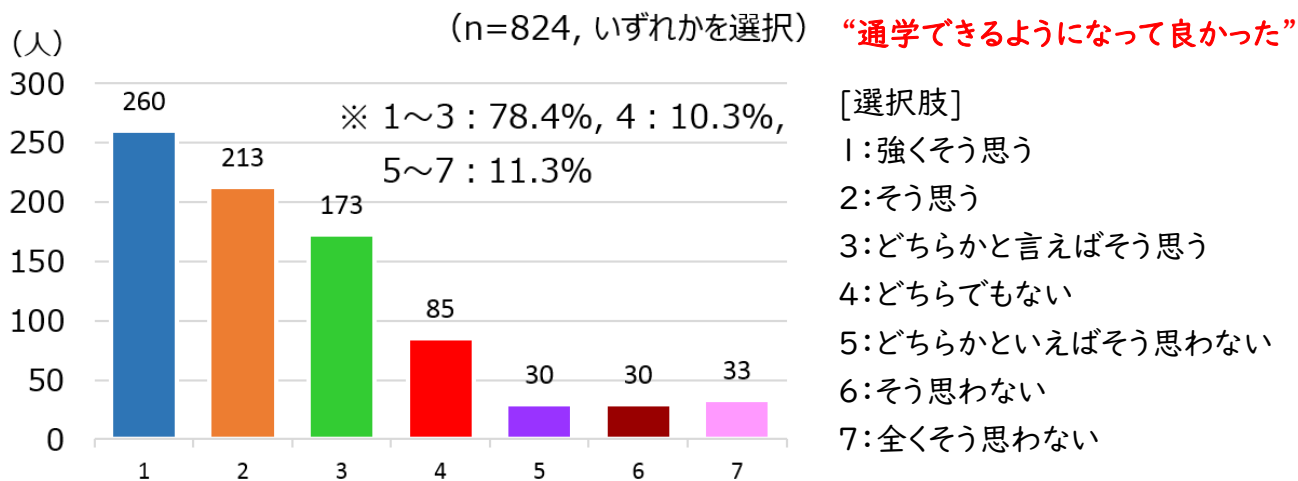
- ①：コロナ感染のリスクはゼロではないが、このままではクラス・部活などでの人との出会いや交流が期待できないので、国や県の規制が解除されたら速やかに学校活動を再開して欲しい
- ②：いろいろ望むことはあるが、とりあえずここまで来たので、前期はこのまま(出校しないまま)終わっても構わない
- ③：国や県がどのような方針を出そうと、コロナ感染のリスクを考えると、少なくとも前期は通常授業に戻すべきではない



以下の設問 C では、通学できるようになって良かったと思うかを尋ねました。対面授業をポジティブ評価(回答1～3)、中立評価(回答4)、およびネガティブ評価(回答5～7)した学生はそれぞれ、全体の78.4%、10.3%、11.3%でした。

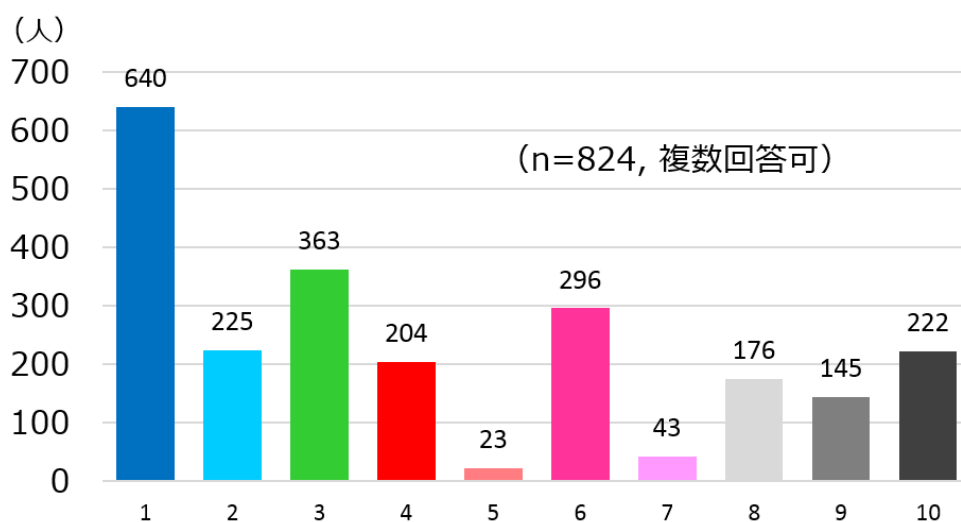
調査期間：7月29日(水)～8月4日(火)

設問 C：前期の全てを遠隔授業にしている大学がありますが、本学では6/3から大学キャンパスにおける授業、7/1から課外活動(部活、サークル活動など)をスタートさせました。次の文言に対して、率直な感想を1～7の中から選んでください(その理由については、あとの質問でお尋ねします)。



以下の設問 D では、通学するようになって良かったこと、良くなかったことなどを 1~10 の選択肢の中から複数回答可で答えてもらいました。824 名のうち 640 名 (77.7%) が 1 番の“同じクラスや他学部に友達 (仲間) ができた”を挙げており、次いで“通学することでメリハリのある生活になった”の回答が多く、通学することをポジティブに評価していると考えられます。一方、通学することをネガティブに評価する理由の最上位は通学時の感染リスクで、2 位 3 位は通学時の肉体的負担、授業中の感染リスクでした。

設問 D: 前の回答の理由としてあてはまるものを以下から選んでください (複数回答可)。



[選択肢]

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1:同じクラスや他学部に友達 (仲間) ができた | 2:課外活動 (部, サークルなど) に参加できた |
| 3:通学することでメリハリのある生活になった | 4:授業がよく分かるようになった |
| 5:授業が分かりにくくなった | 6:授業の課題が減って楽になった |
| 7:授業の課題が増えてしんどくなった | 8:通学による肉体的負担が増えた |
| 9:「授業中」の感染リスクという精神的負担が増えた | 10:「通学中」の感染リスクという精神的負担が増えた |

設問 C で 4 を選んだ 85 名のうちの 55 名、5~7 を選んだ 93 名のうち 12 名についても設問 D での選択肢 1「友達ができた」を選択していました。また、通学に好意的な回答（設問 C で 1~3 を選択）を示した者の中にも、設問 D で選択肢 8~10 と回答している者が見受けられました。設問 D では“設問 C の回答を選んだ理由”として回答を求めましたが、設問をシッカリ読まずに“今の自身の気持ち”を答えた者もいたようです。その意味で各選択肢の絶対値に信頼性はないかもしれませんが、学生の気持ちの相対的順位を反映するデータとしての意味はあると考えています。

前期を全てオンライン授業とした大学では、学生の孤立や不安が問題になっています。前期授業最終日に行ったこの調査では最後に「自由記述」をさせましたが、そこには“コロナは怖かったが、通学できたことは本当にありがたかった”という旨のコメントが多く見られます。また一方で、対面授業に好意的な学生の中にも 7 月末から 8 月最初にかけての感染者急増を不安に思う者があり、“今の状態が続くようであれば、後期は Zoom でお願いしたい”との主旨のコメントが少なからず見受けられました。

後期の教養教育に向けて

後期の教養教育については先頃、対面型授業と同等の「教育の質」が保証できることを前提に、オンライン授業を積極的にご検討いただくよう文書をお送りいたしました。ただし、理系学部を中心に実験や実習など、実際に経験・体験しなければ身につかない知識や技能を含む授業科目も多いことと察します。また、学生の孤立を防ぐだけでなく、学生の「メリハリのある生活」のためにも、オンライン授業実施にあたっての工夫や、学生生活を支援する取組みが必要であると考えられます。対面型授業とオンライン授業の共存には課題がいくつもありますが、教員・学生の双方が満足できる教育の実現に向けて、皆様方とともにその課題を一つ一つ解決していきたいと考えています。

今後とも、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学の FD 活動や各部局における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様に提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。

ご意見・ご要望等はこちらまで ⇒ 名古屋市立大学事務局教務企画室
TEL: (052) 872-5804 Email: kyoumu_kikaku@sec.nagoya-cu.ac.jp